



○「区」とは？
昭和町には「区」が12区あります。地域のいろいろな行事の実施や自主組織としての活動などを行っている組織です。

○自助と共助
災害が起きた場合や高齢者の見守りなど「区」には自助と共助の面で大切な機能があります。

○ごみ出しや各種行事
ごみの収集や運搬は町が行ないますが、地域の任意の場所にごみを出すこと（収集小屋の設置・管理）は「区」や「組」として対応しています。また、いきがいがクラブの活動や子どもの行事、防災訓練、区民運動会、夏祭りなどの地域の活性化も「区」が積極的に実施しています。

○河川清掃や奉仕活動
それぞれ区や組の取り決めによって身近な災害への備えや河川清掃などの奉仕活動を行っています。



都市化が進むなか、「あまりメリットがないから」などの理由で区や組に加入しない状況が増えてきています。

昭和町区長会 会長 依田茂巳さん
(西条二区)に「区」の役割や現状、課題について聞いてみました。

地域にとって大切なことって？ 「区」で実施していること

○町への要望（道路や公会堂建設のほか、交通安全施設、防災資機材、防犯灯の設置、ごみ収集所の整備など地域に寄り添った要望を行います）

○広報誌や議会だより、組回覧情報チラシの配布（広報誌には町民の皆様に必要な情報が掲載されています。議会だよりでは、昭和町議会や議員の活動を知ることができます。防犯情報や消費生活情報、各種講座情報など広報誌に掲載しきれない情報は組回覧チラシで知ることができます）

○地域防災の活動（地域防災のあり方や火事、災害時の助け合いに備えて自助・共助に取り組んでいます）

○地域の催しの実施（夏祭りや運動会、子どもの行事、敬老会、防災訓練、高齢者の見守り、生涯学習などを実施しています）

○地域活動の継承（小正月の行事や昔からの祭典、地域総出の河川清掃など地域生活に密着した活動を継承しています）

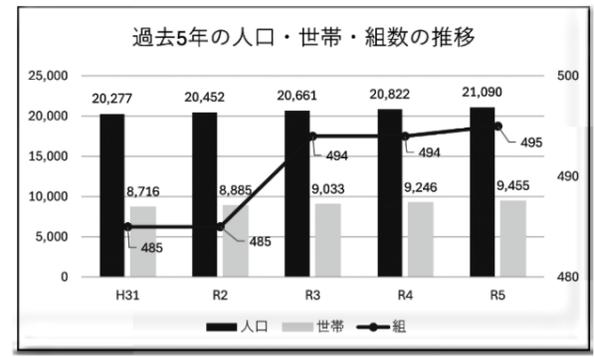


★「区」の役割は？

防災・防犯・子育て・福祉・暮らしやすい環境など私たちの住んでいる地域をより明るく「元気を創出」していくために必要な役割を展開していく組織です。地域住民のふれあいの場として多様な活動（運動会・各種スポーツ競技・環境整備等）を行うことにより人と人とのつながりを深めたり、楽しい時を共有することで心のふれあいを発見できます。また有事の際に大きな支え・力になることでしょ。

★どんな行事があるの？

区の行事には夏祭りや運動会、敬老会、防災訓練などがあります。区によっては、卓球大会や子どもたちのお祭り、伝統行事の継承など、地域のつながりを大切にしています。



●「区」・「組」の付き合いをやめる理由

1. メリットがない
2. 年齢や仕事のため当番で回ってくる役（区長・組長など）ができない
3. 奉仕活動に出席できない
4. 行事が多すぎる

●付き合いをやめて心配なこと

1. ごみ出しをどうしたらいいのか
2. 災害の時に不安
3. 年齢や体調、家族構成などで付き合いができないけれど組の人に申し訳ない

★「区」組加入のメリットは？

近年の災害の多様化は、私たちの生活に大きな影響を与えます。家屋に被害が出た、飲食に困る、どこに避難したらいいの？ そうした不安を少しでもなくすには、隣近所の住民同士の「つな

がりが重要で、地域内の夏祭りや運動会、敬老会などに参加することで地域の一員として活力ある生活を送ることができると思います。地域のいろんな人となつなごることが一番のメリットです。私たちが住む地域は、隣近所との付き合いが何かしらあると思います。わずらわしいと思わずに気軽にできる範囲でつながることで、活力と楽しさのある地域環境で日々の生活を送れるのではないのでしょうか。



★現状を教えてください

町内12区の区長さんで構成する区長会においても区や組に加入しない、加入していても継続できない世帯などが増えている現状を聞いています。町とも連携し加入促進策を検討しております。区へ加入しないといけないの？加入すると面倒かな・・・どんなメリットがあるの？そんな感じで新しく住むようになられた方がまず思うことではないでしょうか・・・なぜ？ひとつにはPR不足があるかもしれません。また、現状加入している方々も社会状況の変化等により忙しくて役員になりたくない、各種行事等には参加したくない、高齢化などもあり区の運営が大変に

なってきたりしているのかもしれない。私が思う大きな要因は、昔からの運営自体があまり変わっていないからかもしれません。

★これから「区」の課題は？

メリットとして防災・防犯様々な情報共有、住みよい環境、コミュニティの充実などがあります。課題として役員のなり手不足・ごみ収集所の美化・各種行事等への参加減少・無関心などがあります。まず大切なことはメリットをさらに充実して広く多くの方に知っていただくことだと思います。そのことにより課題は少しずつ解消していくと思えます。そのために目的を明確にして事業を展開していく。行政との連携を密にして行政でできるこ

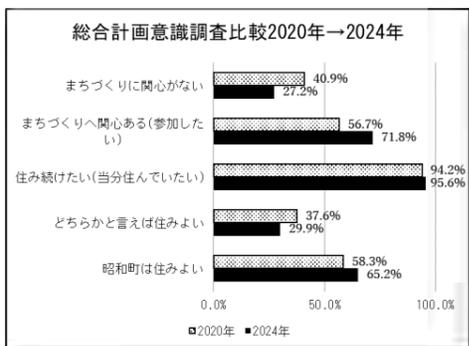
とは行政で行い、区でできることは区で運営し事業等の軽減も図ることが必要です。私たちの生活スタイルや社会環境の変化や多様化を考えると地域コミュニティのあり方も考える必要があります。例えば公会堂の利用形態も多様に検討するなどもあります。私の地元の西条二区では新しい公会堂建設に取り組んでいますが、その建設キーワードは「いつでも開いている公会堂」です。そこに行けば誰かがいて何かをしている、地域の方々の居場所が公会堂にある。そんな小さい変化が課題を乗り越えるポイントになると思います。

★「区」に期待するところは？

私たちの地域に住む人たちが協力し合い親睦と交流を通じてつながること。そのためには身近な環境をきれいにしたり防災・防犯・子育て・福祉などの多様な課題に「ちよつと」の関心を持ったりしていただければ「区」や「組」の加入がスムーズになると思います。そのためにも区の運営や各種行事等のあり方を「変わるために変える」。大切なものは継承しつつ変わる勇気が必要だと思います。そしてもうひとつ。居場所と出番があるとよいです。西条二区では2年前から運動会をスポーツ交流会と改め、押原公園の天然芝グラウンドの上でお子さんからお年寄りまで伸び伸びとプレイできる環境で笑顔あふれる競技スタイルにしました。軽食、飲み物も区で準備しました。笑顔いっぱいの時が創られています！

◆区長会の依田会長に「区」に関して役割や加入のメリット、現状や課題、そして期待することを聞きました。昭和町は「平成の大合併」において市町村合併を選択せず、単独町として歩んでいます。その歩みは、町制施行が昭和46年（1971年）ですから約半世紀にわたります。人口は約6000人から21400人となり、大型商業施設に代表される土地区画整理事業や幹線道路の開通により住環境は飛躍的に発展しました。また同時に、核家族化や高齢社会の進行に伴い、「区」運営への影響が浮き彫りになってきました。

令和6年に実施した第7次総合計画の意識調査では、当分住んでいたいを含めた「住み続けたい」と答えた人は前回も9割を超える状況のなか、さらに1：4ポ



イント増え、(左表中央のグラフ)多くの町民の皆様が「昭和町は住みよいまち」と感じているものとみられます。また、「昭和町は住みよい」と答えた人は、前回調査と比べて6.9ポイント増え(左表の一番下のグラフ)、「どちらかと言えば住みよい」を加えると約95%の人が住みよいと答えています。「どちらかと言えば住みよい」を加えた合計では、前回と比べ0.8ポイント減少しているものの高い数値となりました。「昭和町の満足度」を9割を超える人が「高い」と答えたと言えます。さらに、「まちづくりに関心がない」は13.7ポイントも減少し、「まちづくりに関心がある」は15.1ポイントも増加しました。こうした意識調査の結果から、住環境

(生活環境)の充実(買い物、教育、医療、働く場所)などの総合的なまちの「付加価値」が高いことに加え、「まちづくりへ関心がある」の結果から広報誌や議会だよりなどによる町政を「知る機会」の充実が期待しているものとみられます。そして、潜在的には多くの人が「地域のつながり」の大切さを理解し、地域のために活動したいと考えていることも示しているのではないのでしょうか。

各「区」では、例月の組長会や年1回の総会、また、「組」では組ごとの寄り合い(無尽)の機会があります。区長会長さんのおっしゃる現状や課題、期待などのほか、意識調査の結果から、いろいろな機会を通じて、もう一度、「区」や「組」のあり方をみんな考えていることが、よりよい地域づくりにつながります。現状や課題を再確認することで、それぞれの地域の未来を創っていくことができます。

※町内12区
西条一区・西条二区・清水
新居区・西条新田区・押越
区・河東中島区・紙漕阿原区・築地新居区・飯喰区・河西区・上河東区・上河東二区



企画財政課危機管理係 三井猛樹 係長



企画財政課危機管理係 米山勝大 主事

★共助とは？

私たちが能登半島地震の災害派遣として活動したのは令和6年1月から1週間でした。主な任務は石川県珠洲市において支援物資を管理することで、全国から届く物資を飲食物、衣類、生活雑貨などに分類し住民のニーズに合わせて配布・調整することでした。年始の地震発生であったこ

災害に強い地域へ！

令和6年1月1日に発生した能登半島地震の災害対応として派遣された本町職員が感じた「共助・地域のつながりの大切さ」。「区」や「組」の存在は、災害のとき確かな強さを発揮しました。



発災直後、津波を避けるため近所同士で助け合い高台へ逃げたそうです。また、被災状況の把握もままならないような状況の中で、支援物資をどのように届けるのか避難所運営をどうするのか大きな課題でした。そうしたときに、力を発揮したのが自治組織でもある自主防災会でした。昭和町で言えば「区」、「組」がそれにあたると思います。物資を配布する拠点まで自力で来られる人はよいですが、ひとり暮らし高齢者などは、自宅に損害がなくても物資が届かない(届けられない)ような状況もありました。地域の実情をよく知っている自主防災会が避難をうながし、物資を管理し、避難所運営も担いました。様々なニーズを拾うことで命を救うことにつながり、実際の災害においての、まずは自助、そして共助の必要性を痛感しました。



★地域のつながりの第一歩

様々な災害の教訓から、災害時要支援者の避難、また、支援物資の取り扱い、避難所運営など、地域のつながりによる力が大切だと言われています。昭和町は比較的災害が少ないと言われる地域とはいえ、私たちは、災害現場を目の当たりにして地域のつながりの大切さを改めて強く認識しました。

災害時ばかりでなく、高齢者の見守り、防犯、子育てなど「地域ぐるみ」の取り組みの必要性は誰もが感じていることです。「メリットがない」「行事が多い」など、それぞれの地域の実状もあります。私たちは災害派遣を通じて、みんなで地域のつながりをどのように維持していくのか一緒に考えることが力強い地域をつくりメリットを共有できる「第一歩」になると感じています！